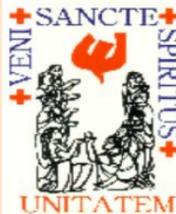


2012年9月2日 (第150号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
ひびきの
ジャーナリストの質問
教会の中で
かわるきものは
「あなた」と「わたし」
マザー・テレサ

秋が深まると、高松教区では「教区民の集い」のシーズンを迎える。すでに10月からは11月にかけて四県での開催日程が決まった。集いでは「わたしたちはこんな教会になりたい」の実践をさらに深める。また今年「信仰年」を迎えて、諏訪榮治司教の提案によって、信徒がそれぞれの信仰体験を「ダイナミックメモリー」で振り返り、そこからの祈りを分かち合う。それは「聴く」から「証する人」に生まれ変わることで、福音宣教する新しい教会への成長を目指す。

10月～11月 4県で「教区民の集い」

高知地区 10月21日
香川地区 11月4日
愛媛地区 10月28日
徳島地区 11月11日

互いの信仰体験分かち合い「証する人」への脱皮めざす

「教区民の集い」の各地区の日程は、高知地区10月21日、愛媛地区10月28日、香川地区11月4日、徳島地区11月11日に決まった。各地区ともすでに、実りある集いとするため、準備作業に力を入れている。今回の集いをどんな形で行うのか各该地区の関心の的だ。高松教区ではこれまでナイスの基本テーマとなっている「信仰」「共同体」「現実」をキーワードに「こんな教会になりたい」を深めてきた。そして今年の「集い」を迎える。7月下旬、諏訪司教名で「信仰年に当たり、教区民の集いを準備するために」と題する文書が発表された。

「信仰年」を有意義に

諏訪司教は「昨年の宣教会のテーマ『どんな教会になりたいのですか』の深まりが継続されています」と述べ「今年10月11日から『信仰年』が始まります。この年を有意義なものとするため教区民の集いでは「どんな教区民の集い」をテーマに、

信仰年に寄せて②

宇和島教会担当司祭 田中正史

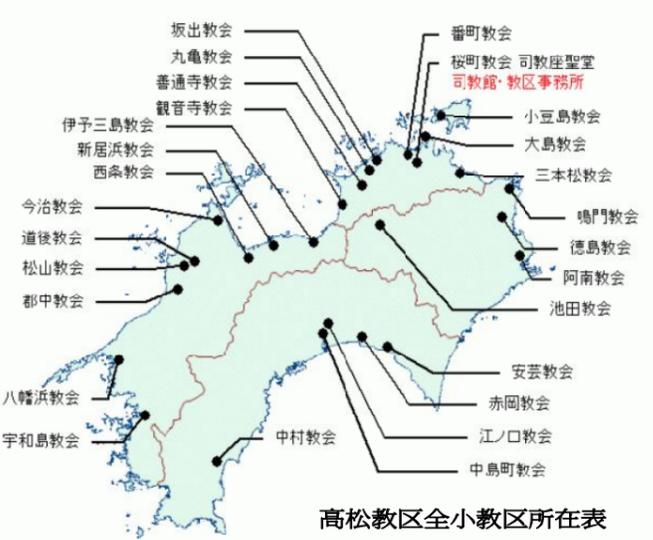
いよいよ来月10月11日から来年11月24日まで特別年の「信仰年」が開催されます。教皇ベネディクト十六世は「信仰年」を開催を告示するにあたって「信仰の門」(Porta Fidei)という自発教令を昨年10月11日に発布しました。この「信仰の門」という表現は使徒言行録14章27節から引用された言葉です。使徒言行録には次のように記されています。異邦人たちが宣教の恵みを受けたパウロとバルナバは宣教の起点であり根拠地であるシリア州アンティオキアから出発して再びアンティオキアへと戻ってきます。帰ってきたからすぐ彼らは教会の人々を集めて宣教旅行中に神が自分たちと共にいて行われたすべてのことを報告します。神が行われた出来事の中でパウロらにとって特に驚くべき出来事は、神が異邦人に



「信仰の門」を開いてくださったことでした。この「信仰の門」が開かれたのはまさに「神ご自身の出来事」であることがはつきりと証言されています。教皇が信仰年開催にあたってこの「信仰の門」という表現を使って私たちに促される新たな旅立ちを再び「信仰の門」のめぐり直しを促している理由はどこにあるのでしょうか。その真意は使徒言行録におけるパウロとバルナバの第一回宣教旅行において彼らが出会った「神の出来事」の中に集約されています。パウロの体験した神の出来事の際立った特徴を以下に挙げてみたいと思います。

信仰の門をめぐり直すと 聖パウロから学ぶ

①「信仰の門のめぐり直し」は私たち一人ひとりが自分の信仰の道を再び見出すために聖霊によって促される新たな旅立ちです。パウロの宣教旅行の意義は聖霊の導きの中に位置付けられています。ルカは出発に際して次のように述べています。「彼と真実を明らかにしたいという真摯な思いの中で、まことの幸福に導かない口をわたしたちのために選び出さない。わたしが前もって二人に決めておいてくださったように、各地に導きます(13・12)。」



高松教区全小教区所在表

「分かち合うこと」で共同体の力、喜び、賛美となるため「ダイナミックメモリー」で自らの信仰を確認し、祈りでの分かち合いを進めて欲しい」と提案する。人生の歩み振り返り神の計りに気分を文書では「ダイナミックメモリー」について、「信仰の目で人生を振り返ることとする。信徒が今までの人生の歩みを丁寧に振り返り神の導きを黙想する。自分が喜び、挫折、導かれた言葉、神様との絆(など)。「その出来事の中に流れている神様の御はからいや呼びかけを信仰者として気づき、主の御手の中にある私の存在を見つけていることは有意義である」とする。集いでは個々にダイナミックメモリーの実践によって導かれた祈りを

「まず教区民の集いありきではなく、個人の信仰を見直す過程に教区民の集いがある」という意識が大事。「内なる喜びを外に表せない日本人気質があり、信仰表現も同じだ。しかし、詩や短歌、祈りに表すことはできる。その中で一致の秘跡を生きようリードする司祭の働きと力は大きい」「周りの信仰表現を沈黙のうちに味わい、祈りとし、その表明を受け入れるというような、誰かが語り、それを黙想するかたちで進めるのはどうか」など。方法各地区に任せる 司祭評議会ではこれらの審議を踏まえ、教区民の集いの進め方については各地区に任せることに決定し、宣教司牧評議会もこれを了承した。

信仰年シンボルマーク解説

・四角形で示される区画の中で、教会を象徴する船が波の上を進む。船のメインマストの十字架とともに、3つの帆がキリストを表す3文字(IHS)をかたどる。帆の背景の太陽はIHSの3文字とともに聖体を示す。

②「信仰の門のめぐり直し」は自分の人生と世界の総督を「信仰の門」へと導きます(13・9)。仕事を当たらせるために「そこへ、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた(13・23)」。それはまさにパウロ自身の「信仰の門」に向けての旅立ちでした。聖霊によって送り出されたパウロとバルナバが、一番最初に遭遇したことが記録されています。そしてイコニオンにおいても信じていない者たちの悪意の迫害について述べられていて、この宣教旅行が順風満帆であったわけではないことが記されています。しかし、この

はばたき 「信仰年」がこれから始まるとうとしている。高松教区でも、小教区・ブロック・地区・教区レベルでの取組みが始まっている。「信仰の喜ぶの再発見」についての言及もある。実りある時を過ごしたい。さて40年前の高松教区での取り組みとして「教区信者世論調査統計表」(1972年10月)がある。入信の動機を見ると10代信徒は①幼児洗礼、②聖人、司祭、シスターの影響の順であるが、20代から60代信徒は①家族・友人の影響、②カトリック信仰のすばらしさ、を挙げている。信仰の喜びを見ると教区全体の85%が「喜びを感じる」としているが、10代信徒の34%は「あまり感じない」と答えている。興味深いのは、「信者同志および隣人との連帯性について」と「教会で自分の能力を発揮できているか」という設問である。前者は教区全体で73%が「協力している」と答え、後者については教区全体で59%が「あまり発揮出来ていない」と答えている。隣接教会との交流、協力についての質問に対しては、圧倒的多数が「おおいに必要」と答えている。気になる教会の財政状態に関しては教区民の47%が「全然知らない」と答えている。40年前にこのアンケートをまとめた方々の危惧が伝わってくる。さて、今アンケートを取ったらどのような結果となるであろうか?

小教区紹介

徳島教会 (徳島)

徳島教区は今年4月より教区司祭担当となり、教区の雰囲気が変わりつつある。長年

以上、徳島小教区評議会各委員代表者からの意見をまとめさせて頂いた。今後委員は、信徒一人ひとりが宣教者であるという意識を高めるべく、コーディネーターとして活動をしていく予定だ。

信徒会館建設が大きな課題



右奥が新築予定の信徒会館

最後に、教区リーダーの方々には、イエフ様が多額の寄付をされたこと、この小教区に寄り添って支え導いて下さるよう、切にお願いを申し上げます。

また今年のファミリーキャンプ

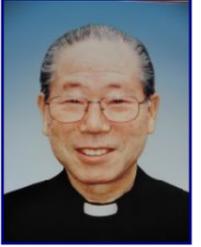
課題として信徒会館の建設がある。この件から、一部団体として対応しない動きがあり、教区が分かれたところはない。何年も何年も同じような質問を投げかけられているが、教区指導のものと、司祭を信徒との分かれ合いの上、教会として正しい方向へと解決してほしい。また、教会も高齢化が進行中、いつまでも教会へ来られるような環境作りが必要だ。

写真はファミリーキャンプ2日目、林神父様、宋神学生、ブラザー阿部と笑顔の連日参加信徒達。



徳島地区ファミリーキャンプ

イグナチオ 下田武雄神父 帰天



8月12日12時57分、聖マリン病院において帰天。87歳。1925年4月3日長崎県南松浦郡若松町中浦町生まれ。1955年12月21日司祭叙階。2005年3月引退。

神父さまの帰天の知らせに接し大きな悲しみの内に、長年の司祭職を全うされたその笑顔の晴れ晴れとした面差しに、深い感動を

頂いております。神父さまの57年の司祭職、激動の時代を生きた87年の生涯を前に、心からの尊敬のうちに冥福をお祈り致します。田口芳五郎司教、田中英吉司教、深堀敏司司教、溝部修司教、諏訪榮治郎司教、5人の司教さまにお任せされました。お疲れ様です。大阪教区、パリ留学、四国使徒使徒教区、高松教区、学校・幼稚園、小教区宣教師、と主イエスの十字架を担い通しての日々を走り通されました。頂いた教え、言葉、思い出を大切に、私たちが信者の生活に励みます。

一信者拝



信仰を熱く語る古巣神父

現地で殉教者の信仰に触れる 広島・高松教区合同司祭黙想会

日本殉教者の歴史と霊性について明るく、多くの講演依頼をお持ちの古巣神父様の導きを仰ぎ、信仰の原点である「日本のカトリック」、つまり日本の初期教会の殉教をも厭わない宣教師と信徒の熱い信仰を見つめ、信仰の何たるかを自身の中にもう一度問い直すよう勧められた。信徒が私たちに何を教えるのか。司祭の顔がキリストの光で輝いているのか。日常の司祭活動の区切りをキリストのもとに帰し、宣教の振り返りが出来るのか。これからの司祭としての歩みの糧としてのいくつかの示唆が与えられたことは大きな恵みであった。

ミサの中で、みことばの典礼は、信仰宣言の後に続く共同祈願で終わります。その共同祈願は三つの部分から構成されています。1・司祭の招きのことば。「聖書と典礼」の招きの言葉には「例文」と書いてあるので、司式者は別の言葉でも(当日の福音にそったことばなど) 会衆を祈りに招くことができます。2・それぞれの意向の祈願。「意向は共通、次の順序で行う。(ア) 教会の必要のため。(イ) 国政にたずさわる人々の全世界の救いのために。(ウ) 困難に悩む人々のために。(エ) 現地の共同体のために。ただし、堅信、結婚、葬儀などの特別な祭儀においては、特別な機会をもっと考慮して意向の順序を決めることができます。(総則第70)。「第4の意向(ウ)は『現地の共同体のために』という指示に基づいて小教区独自に『手作りの祈願を唱えること』ができます。これも典礼の奉仕の一環として良いこと

『典礼奉仕』のために ⑧ 「共同祈願の心得」

高松教区典礼委員長 レナト・フィリッピニ

人的な祈りにならないように。二つ目は「また」、「そして」と、複数の意向を重ねないようにしましょう。3・司祭による祈願の言葉。その後、感謝の典礼に移ります。共同祈願における信徒の心構えについて総則には次のように書いてあります。「先唱者が朗読者か他の者が、朗読台もしくは他のふさわしい場所から会衆に向かって意向をのべる。会衆は自らの役割を果たすために心をこめて答える。(第138)「朗読台、あるいは他のふさわしいところから」とは、たとえば「一番前列あるいは指定席(朗読台)はどうでしょうか。祈願を唱える人数は定められていないから一人でも、数人でも構いません。ただし、聖書朗読にマイクを使用するように、共同祈願の時もマイクを使いましょう。

共同祈願の心構えについて総則には次のように書いてあります。外国語で共同祈願を唱える時、せめてその意向は日本語で唱えられることが望ましいでしょう。外国語の祈願も同じ共同祈願だからです。参考文献 典礼奉仕への招き「オリエンタル研究所」1200133ページ



黙々と教会墓地の世話を続ける

よしのり 松山教会 島崎好哲さん (76歳)



「みなさんが気持ちよくお墓参りができるように、いつも気を配っています」松山市郊外にある教会の衣山墓地のお世話を約16年も続けている島崎好哲さんは話す。墓地内の掃除から、草引き、木のせん定、枯れた生花の始末、トイレ掃除、前の道路の溝の掃除、納骨式の準備や当日のお世話、大風の後には飛び散った造花を元の花入れに戻す。

始めたのは奥様が亡くなり、墓参りに行ったのがきっかけ。定年を機に妻の墓参りと運動もかねて掃除に行くようになった。週に2、3回、朝7時から昼ごろまで作業。『しんどいけど、きれいになると心もすっきりします』と島崎さん。ここには神様とともに生きた神父様方、シスター、信徒らが眠っている。

結婚を機に受洗して50年が過ぎた。誰に頼まれたのでもなく、人の目に触れないところで、苦勞の多い作業をただひたすら黙々と続けてきた。『ボランティア』という言葉そのままの姿だ。最近足が痛くなり、以前のように動けなくなった。『後を誰かやってくれる人がいないだろうか』それが今の心配だという。

道後教会 丸尾 修

神学生便り 体験と学び



神学院での学びは、多方面に渡りますが、全て教区現場で生かされるためのものというものでした。また、教区での体験もまた、神学院での学びを豊かにしてくれるのだと思います。一つの出会い(学び)を

報告させて頂きます。先日、神学院の近所で療養されている神父様を訪問する機会を頂きました。色々お話をの中で、神父様が何度も教会学校教師研修会の講師としておられます。色々とお話を伺っています。

これからの私達神学生の成長のためにお祈り下さい。 哲學課1年 高山徹

ブロック活動始動

東讃ブロック 教区合同キャンプ

去る7月22日初めての「東讃ブロック合同ファミリーキャンプ」が教区の霊性センターで行われました。公共施設ではないため、前準備や管理は分担して行いました。三本松教会の皆さんには大変お世話になりました。

ブロックで協力するということとは単に室内の会議において組織について話し合うだけではないということです。このキャンプを通して東讃ブロックの各教会に呼びかけられたこと、ブロックのすべての教会から参加者が、スタッフ以外の方も関わり、裏方として汗を流してくださいという方も居ます。ブロック態勢に対しての協力を実感し、その意識を高めたというすべての参加者の体験でした。

ブロック長レナト神父 一関連記事4面

本コーナーは今年の高松教区平和週間行事の平和コンサート「召命の集い」

召命の集い



8月4日(土)午後から5日(日)朝まで、四国カトリック会館において第1回高松教区「召命の集い」が

～神様はいつも私たちに呼びかけている～

第1回高松教区「召命の集い」



黙想を通して、神様からの呼びかけをそれぞれに心の耳で聴きとってくださったのではないかと思います。

林 和則

今年も8月4日(土)、桜町司教区聖堂にて高松教区生涯養成委員会の二翼を担う賛美の歌グループを中心とした「平和を祈るコンサート」が開催された。

平和旬間平和コンサート

戦争は人間の仕業です

シスター・ギリスが河合まゆみ氏を合唱指導者に委員会組織の一つの歌のグループとして立ち上げたものだ。初回の平和コンサートは坂出教会から始まり、5回目の今回は中越恵美氏による司会と朗読、戦争体験の語り部としての那須加津子氏による幼児時の悲惨極まる高松空襲体験のお話をセツトし、



その間、賛美の歌による平和への祈りのコーラス、河合まゆみ氏の独唱などプログラムは進んだ。67年目となる広島原爆忌を前にヨハネ・パウロ2世の平和への想いである、戦争は人間の仕業です、を、折しも教区召命の集いに参加していた若者などの多くの参加者

千羽鶴を奉納

広島平和行進

今回初めて高松教区の団体として、2泊3日を過ごしました。そして、教会での広島訪問では、今回が2回目となります。いまでも想えば、あの3日間、とても楽しい時間でした。戦争についての考え方、平和についての在り方についての考えが、改めて以前の考えとの違いがあるか、戦争と平和についての新しい皆さんの自分の答えが出ました。



高松司教館では、司教様による勉強会と、神様からの呼び掛けを感じた時に、宣教師の神父様・神学生・志願者・シスターたちの話を聞きました。司教様の勉強会では、安息日について、イエス様の行動は、周りの人にとどのような印象

歌って踊って 平和を語る

国際色豊かに「戦争と原爆」を考える

8月13日・14日、徳島教会今年、日本・韓国・ス



新居浜教会 高1 小川礼治



阿波踊り2日目で沸く徳島の街へ。あいにくのお天気

で、一時は信じられないほどのしや降りでしたが、そんな中でも、色とりどりの浴衣を着て楽しそうに「にわか連」で踊る韓国の女の子たちの姿がとても可



5つのグループに分かれて分ち合

いをし、その後の「平和のためのミサ」における共同祈願を考えました。どのグループの内容も、これまでの反省をふまえた上で、少しでも明るい未来を願う、静かな祈りに満ちたものになりました。

結城了雪祭

殉教 何と恐ろしい響きだろう。何百年も昔のことながら、背筋を蜘蛛が這い上がってくるような気がする。

信仰も安心安全? でも不幸な時代

阿南教会 渡部厚子

人は苦痛に弱い。主が言われるとおりの心は燃えていても肉体は弱い。」

死されたのを知ってホッとしただろう。うしろめたくもあつただろう。信教のえに殺されることのない時代に生き、限らない安堵と共に肉



去る7月14日(土) 小豆島教会に於いて午前、第6回高山右近祭・列福祈願ミサを捧げることが出来ました。

高山右近祭

去る7月14日(土) 小豆島教会に於いて午前、第6回高山右近祭・列福祈願ミサを捧げることが出来ました。

「お接待の心捧げて右近祭」

小豆島教会 濱野尚作

この度は溝部司教様はじめ十数名の神父様、助祭様、高松教区は勿論のこと県内外からも来島参加してくださり、総勢、百数十名の皆



午後には会場をサン・オリブホールに移し「小豆島キリシタンの足跡をたどる会」が主催する溝部修司教様による「小豆島に潜んだ右近の心情」と題する講演会も400名余が傾聴するほどの盛況のうちに催

すことができましたことを神様に感謝しています。不思議なもので心配していたお天気も、あの2000年長崎での列福式の日



よつに好天に恵まれました。これも右近殿の心の表れたのでしよう。右近殿が私たちをおおつて下さったのでしよう。そして何より私たちの「ナデシコ小豆島教会」の力を見たように思います。

ユスト右近Jook (イイハナ) 咲かせ小豆島

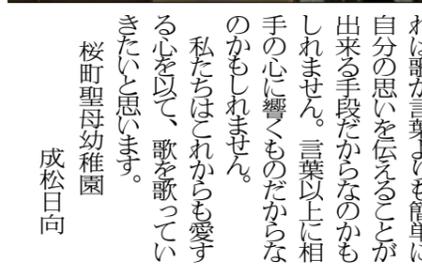
第3回 聖歌合戦 幼稚園のお母さんコーラスも参加

私たち「桜町聖母幼稚園コーラス部」は、今回2回目の参加となりました。選曲には毎回悩むところですが、「いつしなみかき」「赤い屋根の家」の2曲を

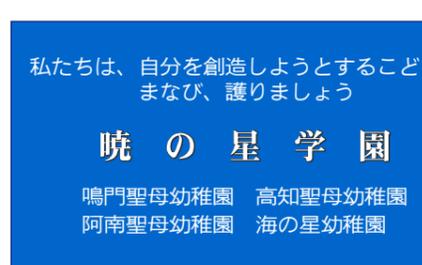
特に「赤い屋根の家」は、幼いころに住んでいた場所・風景が時代とともに変わっ



た「歌とは愛」という言葉がとも印象的でした。普段私たちが歌を歌う時と云えば、子どもに聞かせる子守歌、子どもと一緒に歌うアニメソングなど、相手がいる場合と家事の合間に一人で口ずさむ歌や、カラオケで熱唱するような相手がない場合があります。



しかし、実際に相手がない場合でも、誰か、何かを想像して歌う場合が多いのではないのでしょうか。それは歌が言葉よりも簡単に自分の思いを伝えることが出来る手段だからなのかもしれないですね。言葉以上に相手の心に響くものだからなのかもしれないですね。



私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう

暁の星学園

鳴門聖母幼稚園 高知聖母幼稚園 阿南聖母幼稚園 海の星幼稚園



8月15日の終戦記念日を前に、今一度みんなで共に平和について見つめ直した二日間を過ごし、この意義深い行事を毎年続けていくことこそが、本当の意味での平和につながっていくのだらうと思っております。

徳島教会 桑原美和

医療のともしび (34)

「自殺」について

日本では既に知られているように、自ら自分の生命を断ってしまう人が毎年3万人を超える状況が13年も続いています。これまで教会は長い間自殺に関して非常に厳しい態度をとってきました。

わたしも公教要理を学んだ時に、自殺は大罪であり、自殺した人は葬儀を教会でもらえないし、カトリック墓地に埋葬してもらえないと教えられました。そこには自殺が命の与え主である神さまの御心に背くことであり、信仰者としてあってはならない行為であるという考えがあったからであります。その考えは今も変わりませんし、これからも変わらないでしょう。

しかしながら、自殺に関する精神医学的な研究(うつ病と自殺の関係など)や社会学的な研究(自殺と失業率の関係など)が進むにつれて、自殺の実態は非常に複雑なものであることが分かってきたのです。昔の武士の切腹のような場合は、自ら命を断つ意思が明確であると言えるでしょう。しかし、通常の自殺の状況はそうではないのです。本当は生きていたい、誰かに助けをもらいたいと思っているのだけれども誰も話を聞いてくれる人がいない、病気が絶対に治らない、経済的にもうどうにも

ならない、死ぬしかないと思いつめて心身のバランスを崩し、線路に身を投げたり、首をつったり、農薬を飲んだりといった行動に走ってしまう場合が多いのです。その時の意識は通常の意識ではなく、気が付いたら線路の上を歩いていたとか、朝目が覚めたら枕元に農薬が置いてあったか前の晩自分が農薬を買って来たことを全く覚えていないとか、自分でもそんな行動をするとは全く思っていなかったなど、自ら死を選ぶという明確な意思を持っているとは言えないような状況が多いのです。

苦しみの極地においてどこまで自己責任を問えるかという問題もあるでしょう。また、その人たちが孤独に追いやってきた社会の構造の問題、経済の仕組みの問題もあるでしょう。自殺の全ての責任をその人個人の責任にしてしまうのは実態を歪曲してしまうことになるのです。

以上のような背景をもとに、日本カトリック司教団は2001年に「いのちへのまなざし」というメッセージを日本の社会に向けて発表しました。そこには自殺する人への共感、神の慈しみへの信頼が根底に流れています。今では自殺した人の葬儀を教会で行い、またカトリック墓地への埋葬も行われるようになってきました。私はこのような変化を大変喜んでおります。神様の人間への慈しみ深いまなざしを感じるからであります。

聖マルチン病院 井原彰一

教区スケジュール

- 9月
2日(日) 年間第22主日
5日(水) 司祭評議会12:00
8日(土) 聖マリアの誕生(祝)
9日(日) 年間第23主日
10日(月) 日本205福者殉教者(記)
14日(金) 十字架称賛(祝)
15日(土) 宣教司牧評議会役員会13:00
16日(日) 年間第24主日
17日(月) 敬老の日
22日(土) 秋分の日
23日(日) 年間第25主日 世界難民移住移動の日(献金)
24日(月) 深堀敏師第4回忌追悼ミサ11:00
29日(土) 修道女連盟研修会(高知)
30日(日) 年間第26主日
10月
1日(月) 聖テレジア(幼きイエズス)おとめ教会博士(記)
2日(火) 守護の天使(記)
4日(木) 聖フランシスコ(アシジ) 修道者(記)
7日(日) 年間第27主日
8日(月) 体育の日
11日(木) 「信仰年」開幕
14日(日) 年間第28主日4
15日(月) 聖テレジア(イエズス)おとめ教会博士(記)
17日(水) 聖イグナチオ(アンティオク)司教殉教者(記)
18日(木) 聖ルカ福音記者(祝)
21日(日) 年間第29主日 高知地区教区民の集い(江ノ口教会) 世界宣教の日(献金)
28日(日) 年間第30主日 愛媛地区教区民の集い(道後教会)
31日(水) 秋の1日司祭集会・一般公開特別講演会in桜町

カトリック高松司教区幼稚園連合会(会長:諏訪榮治郎司教)主催の教職員研修会が、7月30日、31日と高松市のホテルにて、「子どもと共に育む心」というテーマで開催された。今回で40回を迎える研修会には、四国4県20カトリック幼稚園から約110名の教職員が参加した。

第1日目は地元からフェルナンド・マヨル師の歓迎挨拶、諏訪榮治郎司教の主催者挨拶の後、講師の乾

盛夫師(唱教公箱司教)が「子どもが心を育む世界」が乳幼児期に人格形成の源泉」と題して基調講演を行った。乾師はこの講演の中で、①成長を司る自然の法則を学び、自然と人の働きの中に働かせる創り主の思いを知ることが必要である

多田 洋

あなたはイエス・キリストですか?
聖骸布 講演会 & 写真展
解説 ガエタノ・コンプリ神父
場所 カトリック桜町教会
開催日 2012年10月13日(土)~14日(日)
時間 10/13(土) 14:00~16:00
10/14(日) 13:00~15:00
演題 『聖骸布とは・聖書との関係』『聖骸布の歴史と科学的研究』
入場無料 興味のある方はどなたでもお越しください

場所:カトリック桜町教会
日時:2012年10月13日(土)14日(日)
時間:10/13(土)14:00~16:00
10/14(日)13:00~15:00
*両日とも内容は同じです
演題 『聖骸布とは・聖書との関係』『聖骸布の歴史と科学的研究』
講師:ガエタノ・コンプリ神父

「ひとつにならう」をスローガンに、香川地区東讃ブロック(小豆島、番町、桜町、三本松各小教区)教会学校合同で恒例のサマーカーニバルが7月22日に東かがわ市水主の霊性センターで行われました。

遊の後は、午前中のミサ



霊性センターで初開催
東讃ブロック教会学校
ワンデーキャンプ
9時30分からの合同ミサは、幼稚園児から高校生までの十数名の子も達と、その保護者、また三本松の信者の方、そしてレナト神父様、谷口終身助祭との賑やかなミサとなりました。ミサの後には参加の子ども全員でヨゼフ神学生の指導のもと、サッカーと綱引きをして遊び、お楽しみの昼食の準備、暑い日差しの中、天候に恵まれ、暑い日差しの中、天候に恵まれた。片付けの後、スイカ割り。なかなか割れず、みんな悔しい思いをしました。が、切ってもらったスイカを全員でいただいた大満足のミサでした。

今回、注目すべき点は一つ。まず霊性センターでの初開催、そして地元でもある三本松教会との合同の主日ミサです。

暑い中、たっさんの子もたちと多くの保護者、そして三本松教会の信者の方々、またレナト神父様他のご協力があり、キャンプが成功に終わった事を神に感謝します。
三本松教会 長町公司

東かがわ霊性センター(仮称:かぜの丘)開設のお知らせ



高松教区立国際神学校(レデンプトリス マーテル)が閉校となり、2年余の管理を経て、「東かがわ霊性センター(かぜの丘)」として新たに開設いたしました。
瀬戸内海に面した三本松の地、みどりの豊かな丘にあり、心身共にさわやかな一時をおすごしいただけるのではないかと、皆さまにご利用いただきたくご案内申し上げます。
青少年活動、教会学校キャンプ、ボーイ(カブ)スカウト、青年たちの集会 また地区活動など、グループ活動の場として、さらにグループ黙想会、研修、養成コースなど霊的な集いなどに広くお使いいただけたらと思います。近くには三本松の海水浴場や平家ゆかりの登山道などもあり、また近接する「とらまる公園」では大きな体育館や、各種スポーツ施設、プール 人形劇場なども充実しています。
ただ、十分整った施設というのではございませんので、できるかぎりグループの自主性とアイデア、そして奉仕の精神のもとでお使いいただけたら幸いです。

申し込み、問い合わせなど詳細は高松司教館事務局にご連絡下さい。
〒076-0074高松市桜町1-8-9 TEL 087-831-6659 Fax 087-833-1484

マリッジ・エンカウンター ミニプログラム
夫婦は小さな教会
マリッジ・エンカウンター 所は、夫婦が結婚の聖儀を聖別しに生きる事を通して、愛の喜びを体験し、その喜びを家庭や社会の中で活かしていくことを目指しています。
日程 第1回 9月29日(土)13:30~16:30
第2回 9月30日(日)11:30~14:30
※2回連続の参加をお勧めしますが、どちらか1回の参加も大歓迎です。
場所 桜町教会2階
※ 高松地区の3聖の聖地巡礼に併せて参加可(要申込)
行先 高松地区の3聖の聖地巡礼に併せて参加可(要申込)
参加費 1人1,000円(参加費、資料、資料、資料)
お申し込み先 鈴木 087-74-0763 (桜町教会)
野崎 087-833-0792 (桜町教会)

ME関東地区の聖イグナチオ教会で行われたの3組のご夫婦による体験プログラムを四国で開催します。
一人でも参加できます。司祭、シスターも歓迎です。
場所 桜町教会2階
日時
第1回9月29日(土)13:00~16:30
第2回9月30日(日)11:00~14:30
お問い合わせ先
鈴木(新居浜教会) 0896-74-8753
野崎(桜町教会) 087-862-0792

新刊書籍
結婚 生涯 ともに誠実に
結婚をひかえたお2人、よりよい結婚生活をおくりたいと考えているご夫婦に贈る愛のいのちの賛歌です。充実の資料編は、カトリック教会で結婚式を挙げるカップル必見!
第一章 不安の中にも二人は結ばれてゆく
第二章 育てられ、成長する「結婚」
第三章 愛するということ
第四章 どのような家庭を築くのか
第五章 神は私たちの期待をよるかに超えて
資料編・カトリック教会で結婚式を上げるために
・カトリック教会の結婚とは ・教会の結婚式Q&A
・カトリック教会の結婚式 ・結婚式で読まれる聖書箇所
・結婚に関する聖書箇所
イシドロ・リバス 著 新書刊 並製 173ページ

召命黙想会のご案内
聖ドミニコ宣教修道女会
テーマ:神様との絆を求めて
日時 11月23日(金)PM2:00から25日(日)朝まで
場所 聖ドミニコ宣教修道女会本部 ロザリオ修道院
参加費 3000円(〒664-0892 兵庫県伊丹市高台5-28)
対象 高校生から35歳までの独身女性 締切 11月9日(金)
申込みシスター小島 ■(072)782-2548 F(072)784-7615

編集後記
今夏も昨年以上の猛暑に見舞われた。そんな中でまた一人尊敬する司祭を失った。痛恨の極みだ。
サツマイモを植え付けているが連日の日照り続きで葉も日焼けし、縮んでいっている。朝、縮んだ水やりの日課となった。
10月から「信仰年」が始まる。パパ様は枯れかけた信仰心への水やりを生徒にかけての課題とするのだから。
それも栄養を豊富に含んだ水でなければと思う。(J)

医療法人社団聖心会 阪本病院
わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様にあふれ信頼される病院を目指します
院内保育園完備
整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
耳鼻科・乳癌科・形成外科
呼吸器科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒766-2002
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121(代)
http://www.idm-hcg.co.jp/sakamoto/

神を観想し、その実りを人々に伝えよ
聖ドミニコ宣教修道女会